

森田秋子（編著），運動・認知・行動研究会（著）

PT・OT・STのための脳損傷の回復期リハビリテーション

—運動・認知・行動からのアプローチ—

橋本圭司（国立成育医療研究センター）

回復期リハビリテーション病棟が創設されて、早10年以上が経過しました。回復期リハビリテーション病棟の創設および実践は、それまでの古典的医学モデルから脱却し、病棟内でのコミュニケーションを通じて、職種間の壁を取り除いた真のリハビリテーションアプローチが実践される礎となりました。回復期リハビリテーション病棟の理念は、今後とも日本から世界に発信されるべきものであると思われます。

そのような経緯を踏まえ、本書「PT・OT・STのための脳損傷の回復期リハビリテーション—運動・認知・行動からのアプローチ」は、形骸化したチームアプローチに関する評論とは異なり、意識的に使い手の側に立って書かれた良書であります。まさに回復期リハビリテーション病棟に勤務するセラピスト（療法士）によるセラピストのための指針書と言えるでしょう。

リハビリテーションの現場では、運動、認知、行動は、それぞれみる視点は違うものの、臨床の現場では分けて扱えるものではありません。この分野の

支援に関わる人々には、常に人対人、患者さんに対して一個人として向き合う姿勢が求められます。

疾患や障害の理解に始まり、予後予測や社会資源、さらには研究の進め方まで網羅した本書は、回復期リハビリテーション病棟への入門書として用いることができるのはもちろん、長期間にわたって同病棟での経験を積んだ各種専門職にとっても、日頃実践しているアプローチの評価・確認の材料となる有用な書物と思われます。

リハビリテーションは、決して机上の空論で行われるべきものではなく、本書の編者・森田秋子先生の「リハビリテーションは、ハートは熱くかつ科学ではなくてはならない」という言葉に共感します。

最後に、日々障害を抱えた患者さんたちに真摯に向き合い支援を続けている、全国の回復期リハビリテーション病棟のリハビリテーションスタッフの仲間達に敬意を表しつつ、本書の評を終えたいと思います。

（B5版，220頁，定価 3,780円（本体 3,600円＋税5%）三輪書店刊 2012）